

水環境・湖沼 (2) (1-B-14-1 ~ 1-B-15-2)

本セッションでは、水環境の湖沼で問題となる植物プランクトンや有機物質の特性や影響について6題の発表があった。

1-B-14-1 および 1-B-14-2 では、*Microcystis* が放出または産生し、湖沼で青色化現象を引き起こす原因物質 -cyclocitral に関する研究であった。アオコの優占種である *Microcystis* 属の制御を目標に、湖沼生態系における *Microcystis* 属の生活環、および、本研究対象物質の役割と機能の解明を目指した化学反応性からの実験結果が報告された。

1-B-14-3 は、腐植物質と活性酸素種の水域生態系における影響を解明することを目的として、とくに芳香族化合物含有量との関係に着目して発表がなされた。

1-B-14-4 は、¹³C トレーサーを用いて植物プランクトン由来の難分解性有機物(RDOM)の生成を解析した報告で、RDOM の増加として、外部供給以外に湖内生産に着目し、植物プランクトンの一次生産量に対する RDOM 生産量の比から湖内生産を試算しこれらの寄与が大きいことが示された。

1-B-15-1 では、底泥から溶出される溶存有機物(DOM)の寄与の研究で、深さ方向での底泥間隙水中の DOM 濃度および特性を分画分布と分子サイズから評価し、間隙水 DOM は UV 吸収能をほとんど持たない高分子 DOM が存在することなどが報告された。

1-B-15-2 は、三次元励起蛍光マトリックス(EEM)法における励起/蛍光=340/430nm ピークと「フミン様物質」との特性評価について報告し、フミン物質濃度と 340/430nm ピーク強度に相関関係が見られないこと、また、このピークはフミン物質とフミン物質より弱い疎水性を有する物質も含めて示していることが報告された。

本セッションは、大学、自治体や国立研究所、また、専門分野は工学、理工学、薬学、総合学術といった多岐の研究機関、広範囲の分野からの発表であった。そのため、会場からの質問やコメントが限られた印象を受けたが、このような様々な研究報告のセッションこそ、環境という複合的な問題の解決につながっていくと感じる。今後も年会を通じた情報交流から、さらなる研究内容を深めていくことを期待したい。

(琵琶湖・淀川水質保全機構 和田 桂子)